

2004年『井戸の日』事業開催決定！！

～「井戸の日」のこれまでの歩み～

◇2001年『井戸の日』

- ・ 1月10日を『井戸の日』と制定

◇2002年『井戸の日』

- ・ 水の王国とやまー地下水との共生ーをテーマに記念講演を開催
- ・ 県庁前広場にて井戸点検メンテナンスを実施

◇2003年『井戸の日』

- ・ 水の王国とやまーとやま水物語ーをテーマに記念講演を開催
- ・ 井戸110番の開設

富山県鑿井協会では、『井戸の日』事業の一環として来年2004年（平成16年）1月10日の『井戸の日』に記念フォーラムを開催する事を正式に決定致しました。

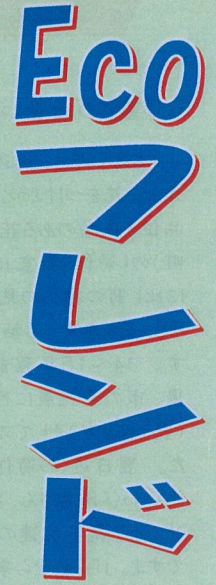
今回の『井戸の日』記念フォーラムは富山県主催の富山県元氣な雪国づくり事業への事業参加ということもあり、雪をテーマに掲げ、記念講演・座談会を実施することを計画しております。また今回、(株)北日本新聞社、(財)富山・水・文化の財団と『井戸の日』実行委員会を組織しまして、今まで以上にパワーアップした事業を遂行してまいりる所存でございます。

2004年『井戸の日』事業を皆様のご期待に添えるよう、協会一丸となって準備を進めてまいりたいと思っております。

また、『井戸の日』記念フォーラムへの皆様多数のご来場を心よりお待ちしております。

平成15年11月吉日

富山県鑿井協会
会長 内山 祐治



Vol.8

【発行】平成15年11月

富山県鑿井協会

〒930-0999 富山市新庄町一丁目十九番号

☎(076)441-4257

Fax(076)441-4287

URL: <http://www.atw.ne.jp/~tomisaku/>

E-mail: tomisaku@atw.ne.jp

2004年『井戸の日』事業

◆『井戸の日』記念フォーラム2004

水の王国とやまーとやま雪物語ー

1月10日(土) 午後1時30分開催 サンシップとやま

◇記念講演 渡邊 興亞氏(国立極地研究所 所長)

◇座談会 (座長) 佐伯 高弘氏(株北日本新聞社 論説委員)

(座員) 渡邊 興亞氏、榊田 敬次郎氏(株榊田酒店 社長)

青木 正俊氏(株安全性研究センター 常務取締役)、内山 祐治氏

◆井戸110番(相談窓口)の開設

◆キャラバン隊の巡回

12月1日より井戸ステッカー貼付車が県内を巡回

技術講習会～(株)安全性研究センターの見学会～

平成15年10月23日(木)午後1時30分より(株)安全性研究センターのご協力のもと、社内の見学会が開催されました。そして、その後取締役技術部長 和田氏により『水道法の改正について』という演題でご講義いただきました。当日は協会員・賛助会員より14名の参加があり、皆真剣な面持ちで講習に臨みました。



(株)安全性研究センター内を見学中

《参加者の生の声！！》

私たち鑿井業を営む者にとって水質試験は頻りに係わる試験の一つですが、実際試験を行っている様子を目にする機会は殆どなかったため、今回試験風景を目にすることが出来たのは非常に貴重な体験でした。

また今回の水道法改正に当たり、水質試験項目の見直しについては当然関心を寄せる項目でありましたが、クリプトスポリジウムという塩素では不活性に出来ない病原菌について話を聞くことが出来たことは、今後水道施設に係わっていく上での貴重な知識を得ることが出来、大変有意義な講習会でした

これより、講義の一部をご紹介します。

『水道法の改正について』

〈改正の背景〉

- (1) 我が国の水道普及率は約96%と高い水準にあるが、水道水の安全性や水質に関して近年新たな問題が生じてきており、水道水質基準の強化に向けた対応が求められている。
- (2) 業者の大半が中小規模事業者のため、水質等の管理体制が極めて脆弱である。
- (3) 利用者は多いが、居住者がいないために水道法の規制を受けていない自家水道やビル等の貯水槽水道において、不適切な管理から感染症の集団発生等の問題が生じている。

〈水質基準見直しのポイント〉

- (1) 地域性・効率性を踏まえた水質基準の柔軟な運用…①水質基準の緩和②水質検査の適正化
- (2) 水質基準の全面的な見直し…46項目(現行)→50項目(13項目追加・9項目削除)
- (3) 病原性微生物対策の強化…耐塩素性病原微生物(クリプトスポリジウム)に対する措置の義務付け(消毒+適切なろ過操作)
- (4) 水質検査等の質の確保…信頼性保証システムの導入①GLP(優良試験所基準)②精度と信頼性保証体制の導入③信頼性保証部門に責任者④水質検査部門に責任者⑤標準作業書による作業のマニュアル化
- (5) 効率的・合理的な水質検査…①地域性を踏まえた水質検査の省略②効率的・合理的なサンプリング・評価③適正な水質検査の確保(水質検査表の作成と公表)

『菊との出会い』 総合スクリーン(株) 澤合 恒信 氏

11月を迎え、最近はめっきり秋らしくなってきました。そして菊の香りと共に大きな花をつけようとしている菊をところどころで見ることがあります。なんとなく品位と威厳のある花、私は大好きです。ここ三年程前から地区(小松市串町)の「菊作り教室」に参加(実は再入会)させてもらっていることもあり、以前に比し菊の花への見方、感じ方も変わってきました。きれいな花、大きな花、そしてそれを支える軸、青々とした葉、これらを見ると心が和む今日この頃です。14～15年程前になりますが、武生(福井)の菊人形、そして地元の県、市の菊花展に行く機会がありました。一口に菊といえどもいろんな種類(花・作り方)そして又趣向を凝らしたもの等に驚くと共に奥の深さを感じました。翌日近くの菊作りの先生とされている方に昨日の事を話したら、先生いわく「澤合さん、興味あるようですね。だったら見るだけじゃなく造ってみませんか。是非私達のgroupに入りなさいよ。人の輪が大きくなるのが楽しいんですよ。」とそれなら来年からお願いします。」と菊作り教室に入会いたしました。これが、今続けている菊作りとの出会いです。最初の年は予想以上に立派な花が付き、先生から「新人ながら、よく出来たね。」とお褒めの言葉も貰った程。自分でもまんざらでもない?と思えば来年はがんばるぞ!!意気込みだけは立派でしたが、…。サラリーマンの宿命:次の年は東京に転勤となり残念ながら脱会。そして8年後定年を迎えました。菊作りには難しさもあるが楽しさを忘れる事が出来ず、再入会した次第です。丁度運良く再入会の年より小松空港への菊の展示(約2週間)が本格的になりました。私達groupにとっては、これと共に地区の文化祭への出典が励みとなり又楽しみです。これらが終わると1年を振り返っての懇親会。(温泉一泊)昔は若かり男女20名のgroup)苦労話をも交え、来年の抱負を語り合う。これも又楽しみです。こうして私達の教室・groupの一年は終わります。

今思うと菊作り教室に入って良かったな!!と、又菊作りが自分の趣味として定着しつつある事大変嬉しく思っております。4月に苗作りが始まり、10月には立派な花に!!(大きなものは直径25cm前後までに)長い間の苦労があるだけに嬉しさ楽しさもひとしおです。菊自身もきれいな大きな花を咲かせ、より美しくみせようとしているようにも思っており、これからも十分にサポートしていきたいと思っています。



小松空港への菊の展示風景(H14)
今年10月26日～11月7日頃の開催でした。

追記:菊作りに取り組んでみようと思われる方は、下記へご一報下さい。菊作りの資料(教室で使っているもの)をお届けします。

090-7088-4721 澤合

水にまつわるいい話

『ヨーロッパでは』

一真工業(株) 土合 一弘 氏

ヨーロッパ各都市の資料では、旧西ドイツの水道水源の内訳は、地下水62%・表流水28%・湧水10%です。州ごとに見ると、その内訳は異なっていますが、ほとんどの地方では地下水依存率が高く、ドイツではまず地下水を水源として考え、それが不可能な場合でも基本的な安全確保のため、河川水を取水後、河川敷に浸透させることにより、できるかぎり地下水取水に近づけているそうです。フランスでは、五つの民間水道会社グループが存在し、パリの場合も給水事業を委託しています。パリは近隣地域の良質な湧水を水源としていますが、水需要の増加により河川水の割合が増え、やもうえずセーヌ川等の表流水をオゾン・活性炭で高度に処理し湧水と混合して給水しています。それでも、湧水が60%・河川水が40%というのですから、同じ大都市東京の地下水が8%・河川水が92%に比べると、状況はずいぶん違いま

す。スイスのライン川沿岸の都市ではライン川の水を森林で浸透させる人工的な地下水涵養を行い、水道水源のほとんどをこの地下水でまかなっているそうです。湖水・地下水の処理水は、それぞれ別のルートで送水され湧水は市内の公衆の泉に給水され、緊急時には一人一日当たり最低5リットルの供給が可能のように考慮されているということです。オランダは、河川水を凝集沈殿と急速濾過で処理し、遠く離れた砂丘地帯に浸透させ濾過を実施しています。地下に浸透し水質が改善された水は汲み上げられ、再び濾過処理をされ給水されるそうです。イギリスのロンドンでは、河川水85%・地下水・湧水15%と、河川水の割合が多いのですが、急速濾過と緩速濾過の二重濾過を行い、地下水と混合して給水されるそうです。国によって水処理の歴史はさまざまですが、地下水を重視するドイツをはじめ、良質の水源地を確保したいというのが、各国の共通の考えといえます。富山県は地下水のおいしい豊富な所ですが世界にはいろんな水事情があります。これからも地下水に対する考えや安易に水処理施設にたよらない各国の施策に注目していきたいと思っております。